

## 予選審査に関する簡単なコメント

第 33 回高専プロコン（群馬大会）

審査副委員長 大場 みち子

新型コロナウイルスの流行も 3 年目になり、感染状況が収束したという状況ではありませんが、社会的にさまざまな活動の制約が解除されてきている状況で、今回の第 33 回群馬大会は 2 年ぶりの現地開催とすることになりました。第 31 回苫小牧大会、第 32 回秋田大会と 2 年連続のオンライン開催となり、それぞれ各部門の参加チーム数を制限していましたが、今回は現地開催で各部門ともコロナ前の参加チーム数に戻り、大変うれしく思っています。

まだまだ、コロナ禍で高専の活動が制約を受けている状況で、今回は課題部門 41 作品、自由部門 41 作品、競技部門 47 作品の応募がありました。いずれの部門もこれまでの応募数から減少していますが、応募作品を概観すると例年に比べて遜色のない作品ばかりでした。開催概要の公開から短い期間でアイデアを絞り込み、具体的な実現方式を検討し、魅力的で独創的な作成にブラッシュアップして作品に仕上げてきた結果でしょう。各作品は豊かな表現で、分かりやすく提案にまとまっていて、学生の皆さんの創意、工夫と日頃の努力、熱意が伝わる提案に仕上がっていました。指導教員や関係者のみなさまのご支援やご尽力がプラスに働いていることに感謝いたします。

課題部門の今回のテーマは、「オンラインで生み出す新しい楽しみ」です。新型コロナウイルスの流行も 3 年目になり、学生のみなさんのオンライン漬けの日々の経験から産み出されたであろう豊かで新鮮なアイデアが満載でした。どのように動作して、どんな楽しさを味わえるのか、実際に触ってみたいと思う提案がたくさんありました。一方、どこに独創性があるのかわからない、どのように動くのかというイメージだけで具体的な実現方法が書かれていない、掘り下げが不十分というような提案も少数ながらありました。来年度も同じテーマですので、普段からアイデアを考えたり、今回の提案をブラッシュアップしたりして次回の提案につなげてください。

自由部門では、自由な発想のもとにバラエティに飛んだ作品が提案されていました。たとえば、健康、環境、観光、コミュニケーション、学習支援、習慣改善などこれまでの恒例分野のほか、美容やテーブルマナー、申請業務などの新分野も登場しました。対象者は高専生や若者に限らず、小学生や高齢者、性別にとらわれない提案もあって、多様性を強く感じました。今回は例年になく、ボーダーラインに作品が集中して接戦となりました。とにかく 1 点でも多く点数を獲得することが予選突破には大切です。予選に通過しなかったチームは、審

査員からのコメントを参考に提案、ブラッシュアップして、次回、再チャレンジして下さい。

競技部門は、各チームとも工夫を凝らした方法が提案されていましたが、これまであまり扱われなかった音声をテーマにしているためか、難しく感じられたような印象を受けました。この結果、一般的な概念を示すだけの提案も少なからずありました。予選では、具体的な手法をどのように使うのかだけでなく、問題に対してどのような工夫をしているのかも審査するので、既存手法の活用方法なども合わせて記載してほしいと思います。

全部門を通してのコメントです。期限オーバーで、合理的な理由がないため、審査対象外となる作品がありました。高評価にもかかわらず、審査対象外となった作品もあり、大変残念な結果となりました。開催概要をしっかりと確認して、時間的なゆとりをもって検討、提出することを希望します。

以上が一審査員としての簡単なコメントです。予選を通過した作品は、本選に向けて、さらに作品の内容が充実することを大いに期待しています。

以上